

あるもの探し

2024.11.5

ずっと考えていることがある。公立幼稚園は、どこも少人数である。来年度、令和7年度入園児一次募集の段階では、どの園も二桁に届いてはいない。本園もそうである。少ないことがわるいわけではない。かえって、よいこともある。

幼稚園では、集団による学びが大切である。遊びが学びである。集団による遊びが重要である。そうすると、集団が必要となる。集団とは、何人以上を言うのか。私の感覚では、3人以上である。だからといって、3人で様々な活動を行っていくとなると、できにくいものも出てくるだろう。やはり、ある程度の人数はほしいところである。

人は、どちらかという、ないものねだりをしがちである。マイナス思考に陥りやすい。そうではなく、“あるもの探し”をしていきたい。少人数だからこそ、できること、やりやすいことは、たくさんある。単純に考えても、一人の先生が30人の子どもに目を配るよりも、少ない人数の方が目が行き届きやすくなるだろう。その方が、子どもたちにとってはよいのではなからうか。

考えているのは、数人の園児のクラスでも、数人だからこそ、できることは何か、やるべきことは何かということである。一昔前のように、20人から30人の園児がいた頃と同じ発想では、何も出てこないかもしれない。必要なのは、発想の転換である。

幼稚園の2年間で、豊かな体験をさせたい。小学校にいくと、その体験が、どのくらい生かされるかはわからない。だが、長い人生の中で、幼稚園での2年間で、きっと生きてくるのではないか。確証があるわけではない。数値化されたデータがあるわけでもない。すなわち、エビデンスに基づいているわけではない。

強いて言えば、我が家の長男を見ていてそう思う。幼稚園時代が、彼の人生に影響を及ぼしているように思う。彼の土台をつくったように感じる。伸び伸びと、他の子どもたちと一緒に、集団の中で成長させていただいた。それは、小学校に入ってから集団活動とは、違ったもののように思える。集団の重要性、意味合いに違いがあるように思う。

少人数だからこそ、一人一人に、たくさんの経験をさせて、もてる力を引き出し、伸ばしたい。可能性の幅をできる限り広げたい。本格的な学習が始まるのは、小学校に入ってからかもしれない。その学習がスムーズにいくためにも、入学前の段階での時期が重要となる。これから、“笹谷方式少人数プログラム”を考えていきたい。